

ウィズコロナ・アフターコロナにおける まちづくりを考えるアイデアソンの結果概要

1 開催の背景・目的

- 新型コロナ危機がもたらすニューノーマルを背景に、生活スタイルは様々に変容しつつある。また、生徒・学生においても、オンライン授業や学校行事の中止、友人との対面機会の減少など、多くの生活変化を受けている。
- そこで、生徒・学生の目線から、道路・公園・水辺など、まちの既存ストックの利活用についてアイデア検討をしてもらい、生徒・学生の抱える課題を共有するとともに、都心生活の質の向上につなげるまちづくりの参考にする。

2 概要

- (1) 開催日時 令和2年11月28日(土)15時～17時
- (2) 開催方法 オンライン (Zoom)
- (3) 参加者 区内在住・在学の中学生～大学生 8名
- (4) 講師 杉崎 和久 氏 (法政大学大学院公共政策研究科教授)

3 検討テーマ及び主な意見

○スポーツ環境について

- ・スポーツイベントを地域の中で開催したい。秋葉原の中央通りでサッカーやサクラテラスの屋上で野球等が出来ると良いと思う。
- ・公園や空き地、駐車場、道路、ビルの公開空地を活用できると、区内全体で運動会や文化祭、部活動の発表ができ、地域との関わりもできるのではないかな。

○公共空間・コミュニティについて

- ・コロナ禍でも地域の方と顔を合わせることができる、道路空間に可能性があるのではないかな。道路は出会いの場でもあるため、スタンプラリー等を用いて歩くことを促すような取り組みが出来ると良いと思う。
- ・千鳥ヶ淵はさくらの時期は人が多いが、その他の時期は比較的閑散としている。景観的にも良い場所なので、イベント等さまざまな活用の可能性があるのではないかな。

○学習環境について

- ・外で勉強が出来るような環境が多くあると良い。その際、天候等に作用されないような環境を創出することは考えられないかな。また、安全・安心、公共性に配慮するため、管理者を設置したり、一人当たりの利用時間を設定するなどの取り組みも必要だと思う。
- ・公開空地に屋根付きの空間があると、天候に左右されず色々なイベントが出来ると思う。

